

○ 概要

沖縄県は数多くの島嶼部から構成されており、その所在は本島を中心に半径600kmにおよび全域が那覇検疫所の管轄区域となっている。台湾、中国本土等に隣接し、全県が亜熱帯地域に属していることから、病原体媒介動物に対する港湾衛生調査は通年実施している。輸入食品届出受付窓口は、沖縄県内に2か所（那覇検疫所（本所）と那覇空港検疫所支所）に設置しており、空港支所では、那覇空港において輸入・通関される貨物に対して行い、それ以外の沖縄県内で輸入・通関される貨物については、那覇検疫所（本所）が届出の受付を行っている。

（１）那覇検疫所（本所）における状況

那覇港に入港するクルーズ客船は、主に中国本土（上海、南沙、厦門など）や台湾から就航している。検疫実績は、平成25（2013）年以降急増しており、令和元（2019）年には那覇港の年間寄港回数（260回）が日本一となった。近年はクルーズ客船の大型化が進み、複数隻同時入港も増え、従来の那覇クルーズターミナルだけでは対応しきれず、コンテナターミナルにも接岸することが多くなっている。

令和2（2020）年2月以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により外航クルーズ客船の就航は停止していたが、令和5（2023）年3月に再開した。

令和4（2022）年の貨物船検疫実施数は230件で、前年（2021）年の17.3%減となった。主に中国本土や台湾、グアムなどからのコンテナ船が入港しており、新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても物流は滞りなく稼働している。

なお、新型コロナウイルス感染症による影響下においても、外航貨物船の乗員交代に伴う対応、ヨットに対する臨船検疫、船舶衛生管理（免除）証明書を所持していない遠洋まぐろ漁船等の臨船検疫及び海上保安庁等による航海中船舶からの急病人搬送等の対応事例が発生している。

（２）那覇空港検疫所支所における状況

令和元（2019）年に国内線・国際線を含めた年間の着陸回数が日本5位、利用客数6位であった那覇空港は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2（2020）年4月以降、国際線の運航が停止していたが、令和4（2022）年6月末に那覇空港国際線の受入体制が整い、同年8月に定期便の就航が再開したところである。現在は新型コロナウイルス感染症発生以前の就航実績には至っていないが、那覇空港は24時間運航可能な空港であり、沖縄県が国内唯一の国際物流拠点産業集積地域（国際物流特区）に認められていることから、特にアジア諸国からの物流拠点となるハブ空港として重要視されている。

那覇空港には自衛隊那覇基地や海上保安庁那覇航空基地が隣接しており、海外活動に向かう自衛隊の出発窓口や帰国時における到着窓口として、また、海上保安庁における海上の救難活動や取締活動の拠点としても重要な役割を担っているところである。

そのため、那覇空港においては空港機能の強化を図るために平成26（2016）年より第2滑走路の建設工事が着工され、令和元（2019）年12月に完成した後、令和2（2020）年3月より第2滑走路の供用が開始されたほか、旅客ターミナルビルの増設工事も順次進

められ、令和2(2020)年10月に国際線部分の拡張工事が竣工している。

(3) 金武・中城出張所における状況

金武・中城出張所は無人出張所となっており本所検疫衛生課が対応している。金武・中城港への定期クルーズ客船の入港はないが、不定期に貨物船等やクルーズ客船の入港がある。クルーズ客船は、ほとんどが那覇港と同様に中国本土や台湾から一次港として入港している。

令和4(2022)年の貨物船検疫実施数は82件で、令和3(2021)年の9.3%増となっており、那覇港と同様に新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても物流は滞りなく稼働している。

なお、令和2(2020)年2月以降は、新型コロナウイルス感染症の影響によりクルーズ客船の就航は停止しているが、護衛艦等自衛隊の船舶に対する臨船検疫、外航貨物船の乗員交代に伴う対応、ヨットに対する臨船検疫等の対応事例は発生している。

(4) 石垣出張所における状況

沖縄本島から約400km離れている石垣出張所には6名(令和6年4月1日現在)の職員が勤務しており、石垣港での検疫実績は平成27(2015)年以降、クルーズ客船が全検疫対象船舶の約4割を占め、令和元(2019)年のクルーズ客船の年間寄港回数は148回で全国5位であった。新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2(2020)年のクルーズ客船寄港回数は10回と大幅に減少し、令和2年3月以降寄港回数はゼロとなったが令和5年(実績:7隻)から再就航している。

国際クルーズ再開を見据え、新港地区に22万トン級のクルーズ客船にも対応できる岸壁が沖縄総合事務局により整備された。また、石垣市港湾課において石垣港クルーズターミナル建設を計画している。

新石垣空港は非検疫飛行場であるが、沖縄県知事からの依頼に基づき台湾や香港から国際チャーター便として就航実績があり、令和4年3月に国際線ターミナルの増築工事が終了した。

石垣島周辺は西表島や与那国島など多くの離島があるため、荒天や故障等による船舶の緊急入港や海上保安部の巡視船、周辺海域を航行する貨物船などからのヘリコプターによる急患搬送等に係る検疫実績がある。

(5) 平良出張所における状況

平良出張所は、沖縄本島の南西方およそ300km、石垣島の東北東およそ130kmの距離にあり、昭和59年以降長く無人出張所であったが平成31(2019)年4月より職員が駐在している。

平良港におけるクルーズ客船に対する検疫実績は、平成28(2016)年以降急激に増加し、令和元(2019)年におけるクルーズ客船の年間寄港回数は147回で全国6位となっていた(国土交通省調べ:港湾への寄港回数)。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、令和2(2020)年1月の検疫以降クルーズ客船の入港が途絶えていたが、令

和 5 (2023) 年 4 月からおよそ 3 年ぶりにクルーズ客船の入港が再開された。

また、下地島空港は非検疫飛行場ではあるが、検疫法第 4 条により、那覇検疫所平良出張所長の着陸許可をもって外国から来航する航空機の入港を認めている。平成 31 (2019) 年 3 月に新旅客ターミナルが開業して同年 7 月からは国際線定期便（香港便）が就航していた。新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、令和 2 (2020) 年 2 月以降定期便の運航が途絶えていたが、令和 6 年 5 月 29 日から国際線定期便（韓国便）が就航した。

【クルーズ客船とは】

旅客船の中でも宿泊設備と豪華な船内設備を備え、食事の提供を伴う長期間の船旅を楽しむことができる。また、船舶の運航要員やサービス要員に加えて医師、看護師が乗り込んでおり、船内の乗員及び乗客の健康管理を行っている。

なお、那覇検疫所管内の港に入港するクルーズ客船は、中国本土や台湾など近隣から 2 日程度で来航し、当日中に出港するショートクルーズが 9 割以上を占めている。